

徳丸「尚齒会」開催

大字徳丸は、歴史と文化のある故郷です。

徳丸尚齒会は、大正2年5月に設立され、その趣意書には「老人は現社会を産出したる功労者にして実に我が地方の至宝なり」と含蓄ある言葉で定義されております。

今年が88回目。その間、大字の有志、役員及び住民全員で、この敬老の精神を継承し脈々と実践してまいりました。

平成13年度の徳丸尚齒会



▲高忍日売神社での祈願の様子

は5月13日(日)、白石町長、岡田県議会議員、水口東公民館長さんなど多数の来賓を迎え、むくむく盛りあがる若葉の匂う、ここ徳丸「老人憩の家」で開催されました。今年度ご招待した方々は、大正15年以前に出生した75歳以上の方130名(半数の方は入院や療養などで欠席)でした。

まず神事でご招待者の身体の壮健、長寿で幸福及び子孫繁栄を祈願した後、謝恩の会では、門屋富雄区長から、日々のご指導、住みよい徳丸を造っていただいた謝意の挨拶がありました。そのあと、徳丸婦人部、組長さん、そして有志の皆さん手作りの徳丸のにおいのするソラ豆や赤飯など心をこめた料理が振る舞われ、過去を偲ぶのとあわせて喜ばれました。

慰謝演芸会では、徳丸伊予万才などの伝統芸能や各サークルの芸能発表、水口館長さんの手品のほか招待者が作詞

▼白石町長さんのあいさつ



徳丸 武智 利秋

した歌などの合唱や孫やひ孫の演芸に満足され、笑顔の広がった一日でした。

また、白石町長さんが、各種民謡を歌った幼稚園、小・中学生の子どもたちがいろいろと語りかけられているのを見て、このような交流が私たち郷土の将来を背負う地域の宝である子どもたちの健全育成に大切なことと痛感しました。

徳丸尚齒会は地域の4世代あがての「ふれあいの場」でもあり、地域に根ざした文化的な財産として誇らしく思っております。

体験して学べるいっしょ

松前中学校教諭 田中領一

最近、学校や社会教育の場で、参加体験型学習とか、ワークショップとかの言葉がよく聞かれるようになりました。

コミュニケーションが希薄になりつつある現代人に、人と人とのつながりや人間関係を見直し、お互いの人権を大切にしていこうという学習の試みです。

松前中学校では実際の社会体験の学習を実施しました。一部を紹介してみます。

1月16日(火)は、氷点下の寒い朝でした。自分の将来を考えるために自分を見つめ直し、就きたい職業を考え、多くの方から話を聞いてきました。そして働いてみたい職種を決めてこの日を迎えました。

ガソリンスタンド、小売店、食堂、幼稚園など町内の35か所で体験学習を実施しました。寒空の下、屋外で仕事をした生徒も大勢いたのですが、疲労感の中にも満足感のある「よい表情」で学校に

帰ってきました。

仕事の厳しさ、生活していくために給料をもらうことの大変さなどをチョッピリ理解でき、収穫のあった一日でした。

この体験学習を通じて、地域の方々は「中学生だってやるときにはやるもんだ、見直した。」と感じ、中学生は「大人ってたいへんなんだ、さすがだな。」と思う。こんな関係が、お互いを認め合い、相手の立場に立って物事を考える、心優しい人間へと導いてくれるのではないのでしょうか。

大人も子どもも、新しいことを学ぶということからは、逃れられません。新たな経験に心を開き、いろいろなことを進んで体験してみたい。

これからの家庭、学校はもちろん、地域ぐるみで温かい人間関係を築き、心を開きあって生活できるようにしたいものです。